

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19 年 12 月 20 日

【評価実施概要】

事業所番号	2172800548		
法人名	特定非営利活動法人 うらら		
事業所名	グループホーム うらら 金山		
所在地	岐阜県下呂市金山町金山988-1 (電話) 0576-32-2131		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成19年12月11日	評価確定日	平成20年 1月21日

【情報提供票より】 (平成 19 年 11 月 24 日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤 12 人, 非常勤 人, 常勤換算	9 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	24,990~44,490 円	その他の経費(月額)	27,000~ 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (100,000 円)	有りの場合 償却の有無	無
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 300 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (平成 19 年 11 月 24 日 現在)

利用者人数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
要介護1	4 名	要介護2	4 名
要介護3	1 名	要介護4	名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 84.5 歳	最低 70 歳	最高 100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	下呂市立金山病院 ・ 阿部医院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な住宅地の一郭に位置し、道を挟んで温泉・福祉の公共施設も直ぐ前にあり、立地環境に恵まれたホームである。設立直後の近隣からの理解不足も解消し、今日では地域に根付き、地域の一員として位置づけられ、定着している。利用者は、介護度1・2の人が多く、自力歩行に問題がなく、日常的に外出し、馴染みのコース、馴染みの人々と会話する等、穏かな暮らしが営まれている。職員の管理栄養士がつくる献立は、利用者の嗜好を満たし、旺盛な食欲も満たしている。また、管理者・職員共に地元の人々で占められ、地域との相互交流の中で、利用者の気持ちに寄り添いながら、家庭的な暮らしを支えるための取り組みが見られる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前は、研修・教育の機会が少ないという改善課題であったが、今回も継続して検討中である。職員の献身的な勤務姿勢が見られるものの、さらに質をレベルアップするために計画的な教育の機会と仕組みを設けることが課題である。 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価は恒常的に取り組むことの重要性を周知・共有している。職員の意見や気づきを集約し、利用者の家庭的で穏かな暮らしを支えるために、できることから改善に努めている。
	②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議には、地域代表や家族も参加しており、情報の把握が容易に得られている。地域の一員としての行事参加や地域住民からの暖かい理解と協力関係ができており、開かれたグループホームになっている。今後は、より具体的な議題を設定し、ホームの運営に活かすことを目指している。
重点項目	③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族との会話の機会を多く設け、何でも言い合える良好な関係作りに努めているが、家族の意見・苦情等はほとんど出されていない。職員は、意見・苦情・不安の無いのは何故か、常に意識を持って対話に努めている。
重点項目	④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域に根付き、開かれたグループホームとなっている。挨拶や野菜の差し入れも日常的である。ホームの行事には、常時7~8人の近所の女性が応援に駆けつけてくれる。また、地域の娯楽ボランティアやマッサージボランティアの定期的な訪問がある。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	慣れ親しんだ地域の中で、尊厳と安心・安全な暮らしを支えていくため、利用者本位の理念を掲げ、日々のケアに取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、入り口廊下の見やすい位置に掲示し、共有を図ると共に、会議の場でも話し合い、実践に活かしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事等には、自治会を通じて酒を差し入れたり、敬老会にも参加している。近隣の人々からは野菜等の差し入れや、ホームのイベントへ招待したり、活発な交流が頻繁に行われている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義は、サービスの質の確保に欠かせない事を十分理解し、取り組んでいる。自己評価や外部評価から職員の意見や気づきを集約し、できることから改善に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は3ヶ月毎に行われ、家族も参加することで、地域に対するホームの役割の理解や防災協力などが話し合われ、ホームの運営に活かしている。今後は、評価結果への検討が予定されている。</p>		
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市とは協力的・好意的な関係にあり、特出する事例は無いものの、サービスの質の向上に向けた連携に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>家族がよく訪問されるので、報告の場としている。また、年4回発行の便り、更に3ヵ月毎に金銭出納等と利用者の暮らし振りを写真を添えて報告している。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の中には、訪問時に介護記録を熱心に読んでいく人もいるが、不満・苦情の事例は無い。家族には、小さなことでも言って欲しいと、繰り返し伝えている。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>今回の自己評価を行った後、1名の離職者があったが、ほとんどの職員が地元出身であり、利用者への影響が最小限となる様、他の職員がフォローしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の熱意に支えられ、円滑なホーム運営が行われているが、職員の質を高め育てるための計画的な研修や勉強会の機会が十分ではない。	○	計画的な研修への参加、内部学習会の体制作り、マニュアル等教材の整備も検討されたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内の3施設との交流を持っており、さらに市内の他同業者とは、自分のところでは取り組んでいない情報を交換する等、相互交流を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者の性格によって個別に対応が行われている。直ぐに馴染む人もいれば、準備期間が1ヶ月掛かる人もあるので、無理強いせず、徐々に時間を掛けながら馴染んでもらっている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者のできる事、得意なことをできるだけやってもらう中で、喜怒哀楽を共有している。調理・漬物づくり・自家製の茶づくりを学んだり、子どもクラシックバレエの訪問や週2回のマッサージボランティアの訪問も楽しみにしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</p> <p>1. 一人ひとりの把握</p>					
14	33	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>昔の懐かしい食べ物を食べたい人や酒を飲みたい人、家の仏壇が気になる人、孫に会いたい人等、一人ひとりの思いを把握し、家族と相談しながら支援している。</p>		
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>					
15	36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>利用者の心身の状態を把握し、全職員で意見を出し合い、家族や関係者と相談しながら介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月毎の見直しと、状態の変化があれば、家族とも相談し、随時見直しを行っている。</p>		
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>					
17	39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>通院や理美容院への送迎、外泊支援、24時間の医療連携体制を支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけの医院及び提携医院への受診を支援しており、要請すれば、随時、訪問受診が得られる体制になっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医師・家族と連携を密にししながら、できるところまで対応する方針であるが、さらに看取りを受け入れるかについては、今後の課題として検討している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	浴室には、職員手づくりのカーテンで遮蔽し工夫している。また、言葉掛けも指示にならないように気配りをしている。記録等は事務所の所定の場所で安全に管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や、食事時間も本人のペースを大切に、散歩のコース・買い物も希望に沿うよう支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付け等に利用者も参加し、職員も同じ食事をゆっくり摂りながら、好き嫌いも無く、残さいも出ることなく、食事を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1日おきに入浴できるように支援しており、その日に気の進まない人には、無理強いせず、翌日に延ばしている。いまのところ、2日連続で拒否する人はいない。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみや掃除は利用者が自発的に係り、漬物を漬けたり、茶葉を精製し「うらら茶」と名付けて一服を楽しんでいる。また、手芸・絵手紙・パズルなどを楽しめるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	機能維持としても散歩を日常的に支援している。近くの観音様を参ったり、池のアヒルや鯉の観賞、道の駅にある野菜の朝取り市が馴染みの散歩コースになっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の手薄な間隙を縫って、外出してしまう傾向にある利用者が1名いるため、本人の心理状況を見ながら、場合により、やむを得ず玄関を施錠している。職員は鍵をかけなくてもよい方法を模索している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回の避難訓練を実施し、1回は消防署の指導を受けている。町内からは防災協力が得られるように取り決めができています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の資格を有した職員が、栄養バランスの取れた献立を作成している。心臓疾患のある利用者には、1日に必要な水分補給を支援するなど、利用者の健康に十分配慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの前にソファを置いたくつろげる空間や掘りごたつのある畳のコーナー等、利用者がゆったり過ごせるように確保されている。また、広いウッドデッキもあり、気の合う利用者同士が思いおもいに過ごしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、仏壇・神棚・位牌を持ち込んでいる人もいます。また、家族の写真や装飾品もあり、配置には家族が協力し、居心地よく過ごせるように配慮している。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。